

# 県指定 史跡 炉畑遺跡

(各務原市鶉沼三ッ池町)

発行 各務原市教育委員会文化課  
〒504 岐阜県各務原市那加桜町1-69  
TEL(0583)83-1111(代)

## 炉畑遺跡の発掘

各務原台地のほぼ中央部に位置する炉畑遺跡は、いまから約5千～2千年前の縄文時代中期から晩期にかけて営まれた集落遺跡です。

遺跡の発掘は鶉沼三ッ池地区の土地改良事業によって、ここから多くの土器や石器が出土したため、遺跡の規模や性格を知るために昭和43年10月から開始されました。それ以後、昭和46年11月までの間に合計5回の調査が行われたのです。

発掘調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡が10軒、縄文時代晩期の土器棺墓が3基発見されましたが、遺跡全体の範囲は調査範囲をはるかに越えることが予想されるため、調査された遺構はその一部にすぎないと考えられています。

竪穴住居跡の平面形態には円形や方形、あるいは方形のコーナー部が丸みを持つ隅丸方形と呼ばれるものなどがあります。いずれも直径や一辺の長さが4～7mほどの規模で、地面を数10cmほど掘り下げて床とし、屋根を支える柱の穴も何ヵ所か掘られていました。また、床の中央部には、石で組まれた炉の跡も残っていました。

ところで、土器棺墓からは、土器を棺に転用したものが出土しています。それは、



炉畑遺跡の復元住居跡



2個の土器が口を合わせた状態で墓穴に埋められたもので、なかにはおそらく遺体が収められていたと考えられます。

縄文時代の炉畑遺跡は、遺跡の南側を流れる小川をはさんで周囲に集落がひろがり、日当たりが良く水はけ良好な台地上にあって居住環境としては最適な条件を満たしていたと思われます。人々は、そうした環境のなかで狩猟や採集によって食料を得ていましたが、社会生活の上では他地域の人々と活発な交流が行われていました。それは、発掘で出土した縄文土器のなかには、この地域の遺跡から多く出土する<sup>さきはた</sup>咲畑式土器と呼ばれる土器のほかに、西日本に分布する<sup>さとぎ</sup>里木式土器や、東日本に分布する<sup>かそり</sup>加曽利E式土器などの影響を受けた土器が出土しているからです。このような他地域との文化的交流は、縄文時代の社会が狭い地域のなかだけで成り立っていたのではないことを証明しています。

### 土器と石器

縄文時代に使われた土器のことを、私たちは普段、縄文土器（縄文式土器）と呼んでいます。

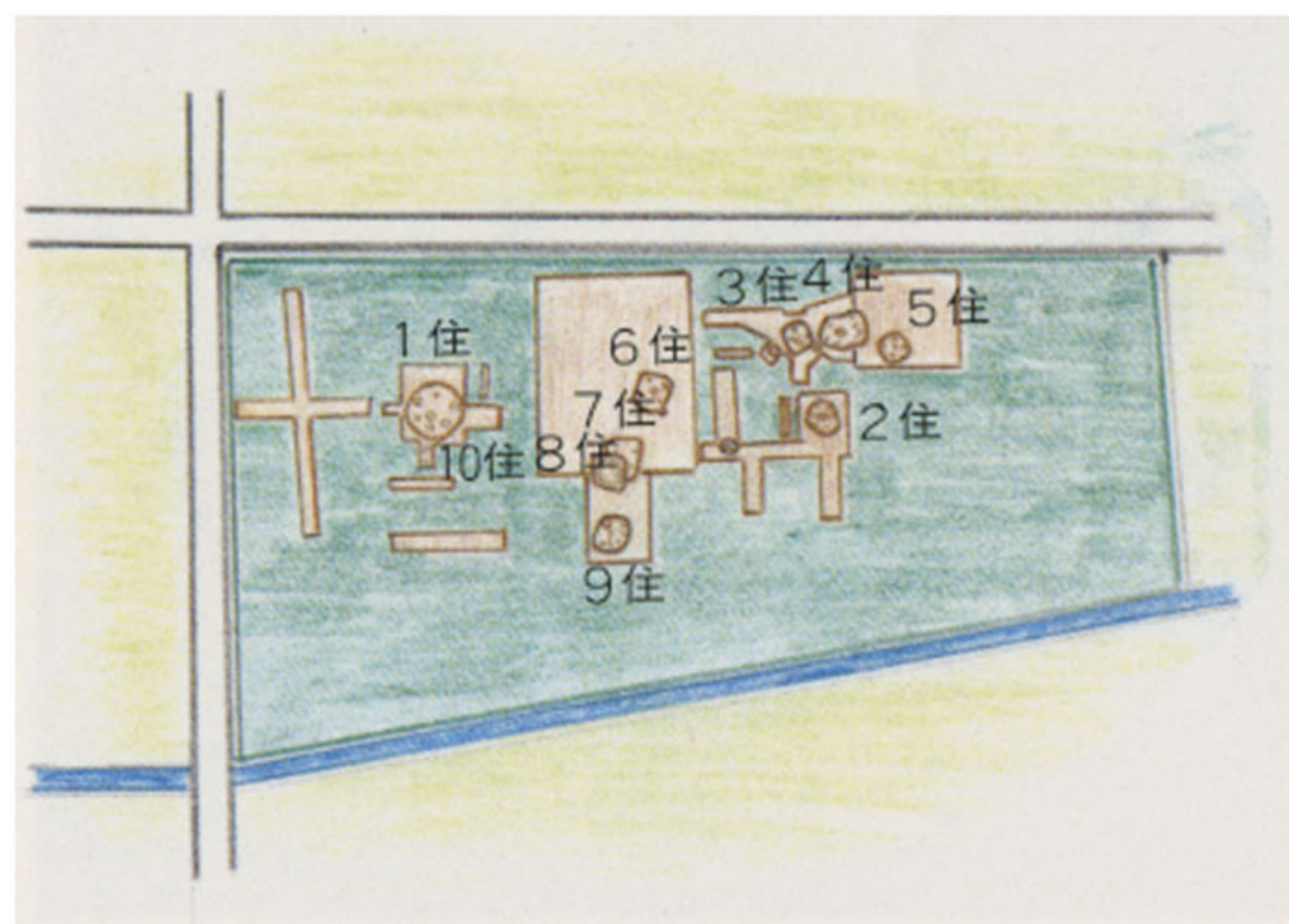
『縄文』とは、土器の表面に縄を転がしてつけた装飾的な文様がみられることからつけ



炉畑遺跡の発掘風景(昭和43年)



9号住居跡



炉畑遺跡発掘全体図



土器棺墓





咲畑式(炉畑式)土器



里木式系土器

られた名称で、土器の名称にとどまらず、その土器が使用された時代の名称としても使用されています。

縄文土器の基本となる器の種類には『鉢』があります。『鉢』には浅鉢・深鉢などの種類がありますが、それらには煮炊用や貯蔵用、あるいは盛付け用などの用途が考えられます。また、土器には日常で使われるものや儀式・祭礼の場で使われるものなどの区別もあると考えられており、縄文時代にすでに高度な精神文化が発達していたことが想像されます。

石器についても、土器と同じくその形や大きさは、それぞれの石器の種類と用途によって様々なちがいとなって表れています。

縄文時代には、人々はまだ鉄や銅などの金属を知らなかったため、刃物などの道具は加工しやすい石で作っていました。炉畑遺跡からも、こうした石の道具（石器）が多く出土しています。

石器には、その種類と用途によって様々な形や大きさ、作り方などがあります。

弓矢の矢じりなどの狩猟具、物を切ったり削ったり、穴を開けたりする斧おのやナイフ・錐きりなどの工具類、食物を調理するための石皿いしざらな



加曾利E式系土器



石の錐きりと匙形をしたナイフ



どの調理具、あるいは宗教的なまじないなどの儀式にかかわる呪具<sup>じゅぐ</sup>や、身体を飾る装身具など、石の道具には実用・非実用を問わず、人間のあらゆる生活分野にわたって必要と考えられる種類の道具が、金属の道具とかわらないくらい認めることができます。

こうした土器や石器のありかたを考えてみますと、縄文時代の社会は決して未開で非文明的な社会ではなく、現代の高度な技術社会とは異なるものの、広い地域間交流と豊かな文化に支えられた高度に発達した狩猟・採集社会であったことが想像されます。

### 炉畑遺跡の周辺

現在の炉畑遺跡とその周辺は、一面の畑と工場・人家になっていますが、こうした一見どこにでも見られるような風景のなかに、多くの遺跡が静かに眠っています。

炉畑遺跡の周辺にも、炉畑南遺跡<sup>ろばたみなみ</sup>・防風林遺跡<sup>ぼうふうりん</sup>・三ッ池遺跡などがあり、さらにその周辺には旧石器時代や弥生時代、古墳時代などの遺跡があります。各務原台地とその周辺は、歴史と文化財の宝庫なのです。



磨きあげられた石の斧



様々な石から作られた矢じり



縄文時代竪穴住居イメージ写真(撮影藤田一郎氏)



周辺の遺跡案内図